

学級活動

○ 生徒会活動

学校行事

### 令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立城南中学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「城南杯（しろなカップ）」		

#### ◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が希薄であり、自分と仲の良い生徒以外の交流を持とうとしない生徒が多い。</li> <li>・班集体や学級集団になじむことが難しく、他人と協力して物事を成し遂げる等の活動に課題がある生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その時、その場で何をすべきかを自分で考え、行動にうつすことができる生徒。</li> <li>・周囲との人間関係を構築し、「いつでも、どこでも、誰とでも」良好な関係を築くことのできる生徒。</li> </ul>



#### ◆ 取組の具体的内容

##### 取組を実施する意図及びねらい

生徒会活動を中心とした「城南杯（しろなカップ）」の実施  
 → 団長や学級委員、班長などのリーダーを育成し、集団活動を通して、個の力を育てる。

##### 取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等

###### ～概要～

「総合ポイント制度」として、学校生活のさまざまな活動（生徒会の取り組みが中心）を評価し、ポイントを加算する。年間を通じて集計し、優れた成績を収めたクラスや団を表彰する。

- ① 学校行事→城南祭（体育の部・合唱の部）など
  - ② 委員会活動（各種委員会活動、学校美化活動、挨拶運動など）
  - ③ ボランティア活動（地域清掃、募金活動、福祉活動など）
  - ④ その他の特別な取り組み（生徒の自主企画、特別表彰など）
- ※今年度は、③・④未実施。

現在の得点を見える化し、意欲の向上につなげる。



###### <生徒会執行部への指導・導入>

生徒会執行部発足時に、生徒が主体となり取組の立案や年間の計画を立てるよう仕組んだ。その際、「ねらい」「巻き込む力」「ベクトル（学校のレベルとの比較）」の3つについて考えさせた。生徒は各委員会に分かれ、自分の担当でポイント加算できそうな取り組みを考え、交流した。

1学期の初めに、生徒会長から取組のねらいと内容について、全校生徒の前で話す機会を設定した。

###### <教職員への指導>

生徒主体の活動とはいえ、教師の役割は「先を見通し、生徒の心に灯をともし」ということを事前に示し、生徒と教職員が同じ方向を向いて取り組みを行うことができるよう仕組んだ。

###### <取り組みの実際>

- ① 城南祭（体育の部・合唱の部）
  - ・3学年の縦割り集団を軸に、3年生の団長と城南リーダーを中心に下級生に指導を行った。演技や歌唱力の出来栄だけでなく、練習の雰囲気や整列・集合時の態度などもポイントに加算し、各団ごとの結束力を高めるような工夫を行った。
- ② 各種委員会の取り組み
  - ・クラスの各委員が中心となり、クラス単位で各種委員会の取り組みを実施した。その際、減点方式ではなく、加点方式の取り組みを多く取り入れ、生徒のやる気を育てることを工夫した。

#### ◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 班長、学級委員、団長などのリーダーを育成することにより、集団になじめない生徒へ生徒自らが声をかけるなど、集団に取り込む意識が高まり、集団づくりの一助となった。
- 学校評価アンケートより、「生徒会活動に主体的に取り組んでいる」の肯定的評価が83%（前年度数値なし）であり、多くの生徒が生徒会活動に主体的に取り組んでいる。
- 各種取り組みについて、縦割り集団や各クラスにおいて取り組み方やその意欲に差が生じ、集団が高まらない場面も見受けられた。「生徒のやる気を育てるための取組」ということを再認識し、取り組み内容を精査する。